

【単元目標】 A(1)(2) 30までの数について、数え方、構成、表し方、読み方などを理解するとともに、簡単な2位数と1位数の加法、

【単元がつながる内容】
 1年 3つのかずのけいさん
 1年 大きなかず

【単元に関わる既習内容】
 1年 <ひきざん、大きな数>
 ・1から10の数の唱え方、数え方、表し方、読み方
 ・1から10の数の大小比較
 ・0から10の数の順序、系列
 <あわせていくつ ふえるといくつ>
 ・和が10以下の加法の計算
 <のこりはいくつ ちがいはいくつ>
 ・10以下の数から1位数をひく減法の計算

12+3, 15-3のような計算を習得する授

⑦ たしざん【考える】
 数の構成に着目して、10+6, 12+3のような加法の計算の仕方を考える。【知・考】
 10のまとまりとばらにわけてたし算をすればいいのだ

⑧ ひきざん【考える】
 数の構成に着目して、16-6, 15-3のような減法の計算の仕方を考える。【知・考】
 たし算と同じように10のまとまりとばらにわけて、今度

⑨ たしかめもんだい【活用する】
 数の構成や系列を理解するとともに、具体物の数を数えたり、簡単な2位数と1位数の加法、減法の計算をしたりすることができているか確認し、それに習熟する。

【単元後の児童の意識】
 10よりおおきいかずは、10のまとまりがいくつ、1のばらがいくつと考えて数えたり、計算したりすると正確にできる。もっと大きい数も同じようにやればいいのか

数直線から数の大小比較をする授業

⑤ かずのせん【考える】
 数直線の読み方を理解する。また、20までの数の大小比較がで き る 。
【知】
 数の線は、0から始まり、右に行くほど数が大きいのだね。1目盛りはどこも同じ幅(長さ)になっている。0から数えなくても、目盛りの数字を読めば、いくつかがすぐ分かる

⑥ 20よりおおきいかず【考える】
 20までの数の表し方をもとに、20より少し大きいかずの表し方を類推的に考える。【知・考】
 20よりおおきいかずでも10のまとまりがいくつ、1のばらがいくつをもとにして考えればいいのだね。

【児童の実態】
 ○10までの数は、全員数えることができる。
 ●指で8を出すと、指を1本ずつ数えなくては8であることが分からない児童が2人があつたが少しずつ分かるようになってきた。
 ●繰り上がりがないたし算カードがスムーズにできない児童が1人、繰り下がりがないひき算カードがスムーズにできない児童が3人いる。

10のまとまりと1のばらがいくつと考える授業

① 20までのかず 1【考える】(本時)
 20までの物の個数を数える活動を通して、正しく数えるには10のまとまりを作るとよいことに気づき、11~20までの数を正しく数えることができる。
【考】
 10を数えて線で囲んで10のまとまりを作り、あといくつかを

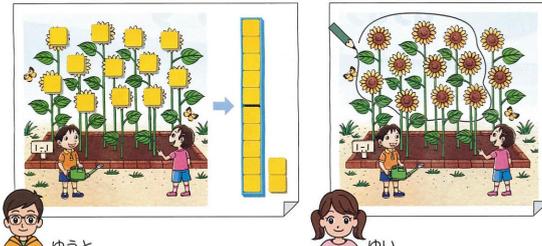
② 20までのかず 2【知る】
 10のまとまりを作る活動を通して、10とあといくつかを数えて、数を表したり読んだりする。【知・主】
 10とあといくつかを考えて、数字で正しく書くことができたよ。

③ 20までのかず 3【生かす】
 20までの物の数を数え、数字で表す。2つずつ、5つずつまとめて数える良さに気づき、まとめて数える。
【知・主】
 10ずつまとめて数えると、正しく早く数えられるよ。2つずつ、5つずつまとめて数えるやり方もあ

④ 20までのかず 4【知る】
 20までの数の構成、順序、系列の理解を深める。【知】
 10といくつで表すことができるよ。20までの数の順番が分かったよ。増える並び方と減る並び方もわかったよ。

◆本時のねらい 20までの物の個数を数える活動を通して、正しく数えるには10のまとまりをつくとよいことに気付
き、11～20までの数を正しく数えることができる。

◆本時の展開 (1/9)

	学習活動と児童の姿	指導上の留意点
つかむ	<p>1 問題提示</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">P71 はなのかずをくふうしてかぞえましょう。</div> <p>2 課題づくり</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">10よりおおきいかずをくふうしてかぞえよう。</div>	<p>◇目的をもって問題解決に向かえるように、今までは、10より小さかったが、今日は10より大きいことを確認する。</p> <p>○ペア交流の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し手は、自分の考えを相手に伝わるように教科書を見せながら話す。 ・聞き手は、自分の考えと同じところ、違うところを考えて聞く。
考える	<p>3 考えるための見通しをもち、自分の考えをもつ。</p> <p>A 1から順に数える。</p> <p>B 上にブロックを置いて並べる。</p> <p>C 10を線で囲み、あといくつあるか数える。</p> <p>4 ペアで交流する。</p> <p>5 全体で交流する。</p> <p>A 順番に数えていくときに、数えた物が分かるように、ひまわりに印をつけていく。</p> <p>B1 ひまわりにブロックを置き、そのブロックを数える。</p> <p>B2 ブロックを10のまとまりにし、10と2で12。</p> <p>C ひまわりに印をつけて数え、10を囲む。10が1つと1のばらが2つだから12。</p>	<p>○全体交流では、どの調べ方もよいことを認めた上で、10とあといくつという捉え方はこれからの学習の土台になるので定着させていく。</p> <p>○「10のまとまり」「1のばら」をキーワードとして掲示する。</p>
深める	<p>深めの発問 2人の数え方で同じところはどこですか。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  </div> <p>・2人とも10のまとまりをつくって考えている。(10と2)</p> <p>(答え) 花の数は10とあと2で12個です。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>評価規準【思考・判断・表現】 20までの物の個数を10とあといくつと捉えて、数字で表せばよいと考えている。</p> </div>
まとめる	<p>6 練習問題 P73 ② 「ちょう」の数</p> <p>7 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">かずをかぞえるときは、10のまとまりをつくとよい。</div> <p>8 練習問題をする。</p> <p>P73 ② 「ひまわりのたね」の数</p>	<p>◇最後の練習問題では、10のまとまりを鉛筆で囲んでいるかを教師が確認し、評価する。</p> <p>☆10のまとまりと1のばらがいくつと考えるよさに気付く。</p> <p style="text-align: right;">(自己啓発力)</p>

